

現地災害調査速報

平成24年5月6日に茨城県常総市からつくば市にかけて
発生した突風について

目次

- 1 突風の原因と気象概況
- 2 現地調査結果
- 3 気象の状況
- 4 警報・注意報及び気象情報の発表状況
- 5 参考資料

平成24年5月11日
(平成24年6月8日更新)

注) この資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがあります。

水 戸 地 方 気 象 台
東 京 管 区 気 象 台
気 象 研 究 所

1 突風の原因と気象概況

5月6日12時35分頃に発生したと推定される突風により、常総市大沢新田からつくば市平沢付近にかけて、被害が発生した。

突風現象の調査のため、気象研究所、水戸地方気象台、銚子地方気象台では、6日から7日にかけて職員を気象庁機動調査班（JMA-MOT）として派遣し、現地調査を実施した。

結果は以下のとおりである。

1-1 突風の原因の推定

① 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は竜巻であると認められる。

（根拠）

- ・ 竜巻を撮影した写真や映像があった。
- ・ 被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であった。
- ・ 被害地付近で、突風被害の発生前後に、竜巻を目撃したという複数の証言があった。
- ・ 被害や痕跡から推定した風向に収束性がみられた。

② 強さ（藤田スケール）

この突風の強さは、藤田スケールでF3と推定した。

（根拠）

○調査により確認できたこと

- ・ F3を示唆する、基礎ごと転倒した住家があった。
- ・ 基礎ごと転倒した住家の周囲に屋根が全て飛散した住家など、F2に相当する被害が複数あった。

○研究機関による局地的な風速の推定

- ・ 基礎ごと転倒した住家を対象とした複数の研究機関の計算結果では、この場所の局地的な風速の推定値として、F2～F4に相当する値が得られた。

○藤田スケールの推定

- ・ 計算結果による局地的な風速の推定値を参考に、被害程度の連続性を考慮し、F3の可能性が最も大きいと推定した。

③ 被害の範囲

現地調査の結果 被害範囲の長さは17Km、幅0.5Kmであった。

1-2 気象概況

5月6日は日本の上空5500メートルにおいて、氷点下21度以下の強い寒気が流れ込んだ。一方、12時には日本海に低気圧があつて、東日本から東北地方の太平洋側を中心に、この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ。

さらに、日射の影響で地上の気温が上昇したことから、関東甲信地方は大気の状態が非常に不安定となり、落雷や突風、降ひょうを伴う発達した積乱雲が発生した。

突風が発生した時間に茨城県常総市からつくば市の被害地付近は、活発な積乱雲が通過中であった。

● : 主な突風被害発生地域

1-3 突風被害発生地域



謝辞

この調査資料を作成するにあたり、関係機関の方々、茨城県常総市及びつくば市の住民の方々にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

2 現地調査結果

実施官署：気象研究所、水戸地方気象台、銚子地方気象台

実施場所：茨城県 つくば市、常総市

実施日時：平成24年5月6日 15時00分～19時00分頃

平成24年5月7日 10時30分～16時00分頃

2-1 被害状況

(茨城県生活環境部防災・危機管理課調べ 6月6日16時現在)

つくば市

- ・人的被害 死者 1名 負傷者 37名(軽傷)
- ・住家被害 全壊 76棟、半壊 158棟、一部損壊 388棟
- ・非住家被害 全壊 105棟、半壊 60棟、一部損壊 243棟

常総市

- ・人的被害 なし
- ・住家被害 一部損壊 12棟
- ・非住家被害 一部損壊 16棟

2-2 聞き取り状況

①A氏 (つくば市 吉沼)

- ・12時40分頃、吉沼郵便局の局舎から見て南方に竜巻を発見。地表付近に渦巻く塵を確認。降水は無かった。

②B氏 (つくば市 吉沼)

- ・作業場のプレハブ小屋が分解して70メートル飛散。携帯電話の発信履歴から12時38分～45分の間には通過したと確認。

③C氏 (つくば市 下西高野)

- ・プレハブ3棟中1棟は倒壊、2棟の屋根が剥がれた。落ちていた時計が12時50分で止まっていた。

④D氏 (つくば市 北条)

- ・12時55分頃(携帯電話の履歴より)、家の庭から南西方向に竜巻を見た。耳鳴りがして飛行機のような音であった。

⑤E氏 (つくば市 北条)

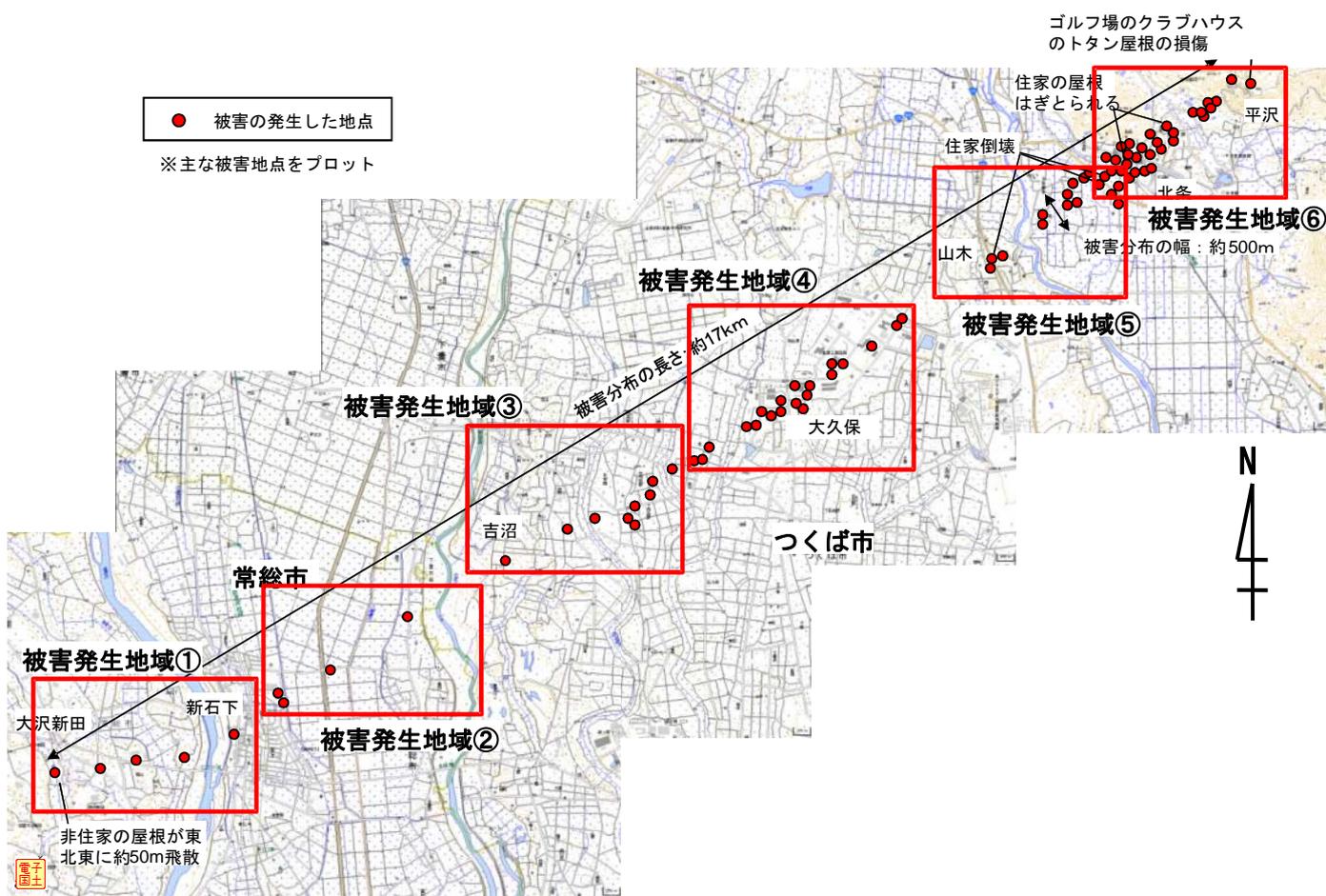
- ・テレビ番組から12時45分頃と思う。黒い渦が音を立てて迫ってくるのが見えた。車庫が東方向に飛ばされた。

○竜巻の写真



常総市からつくば市に被害をもたらしたと思われる竜巻
5月6日午後0時50分頃 つくば市平沢
(つくば市の住民撮影、共同通信社提供)

○被害発生地域図（茨城県常総市・つくば市）



- 拡大図①（常総市大沢新田地区～新石下地区） P6
- 拡大図②（常総市本石下地区～豊田地区） P6
- 拡大図③（つくば市吉沼地区～西高野地区） P7
- 拡大図④（つくば市大砂地区～和台地区） P7
- 拡大図⑤（つくば市山木地区～小泉地区） P8
- 拡大図⑥（つくば市北条地区～平沢地区） P8

○被害発生地域拡大図

	木や植生や物が倒れた方向
	屋根瓦や物が飛んだ方向
	被害の発生した地点

※主な被害地点をプロット

①常総市 大沢新田地区～新石下地区



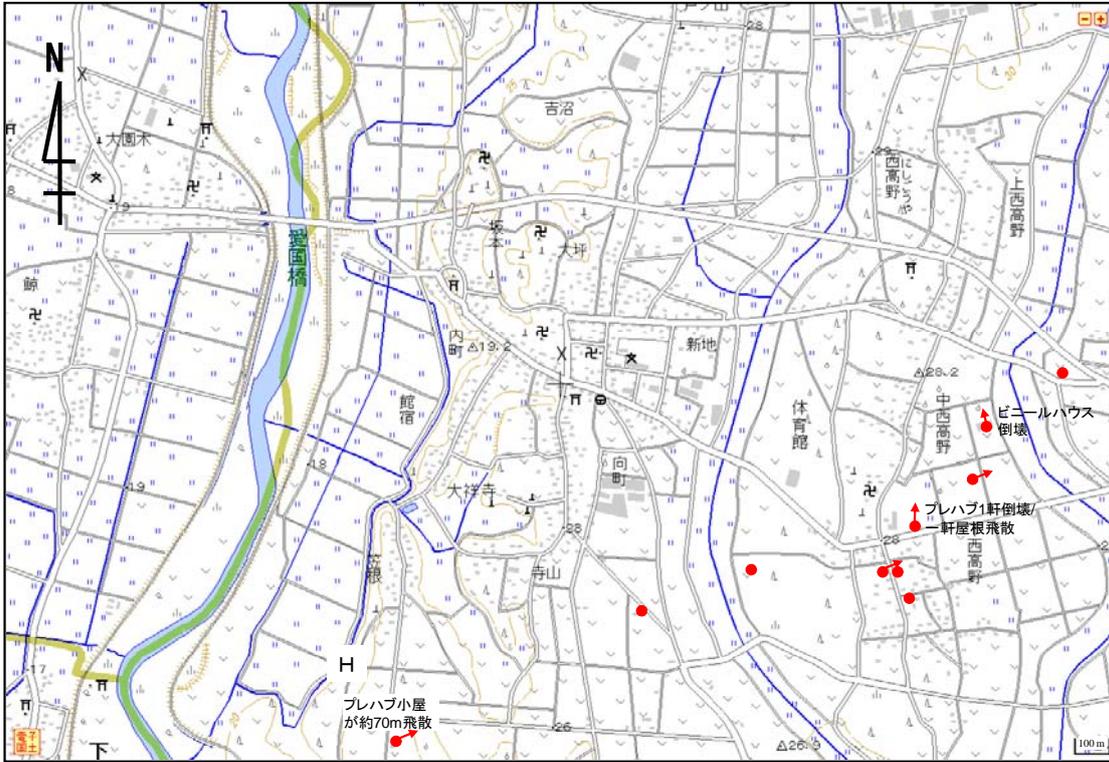
②常総市 本石下地区～豊田地区



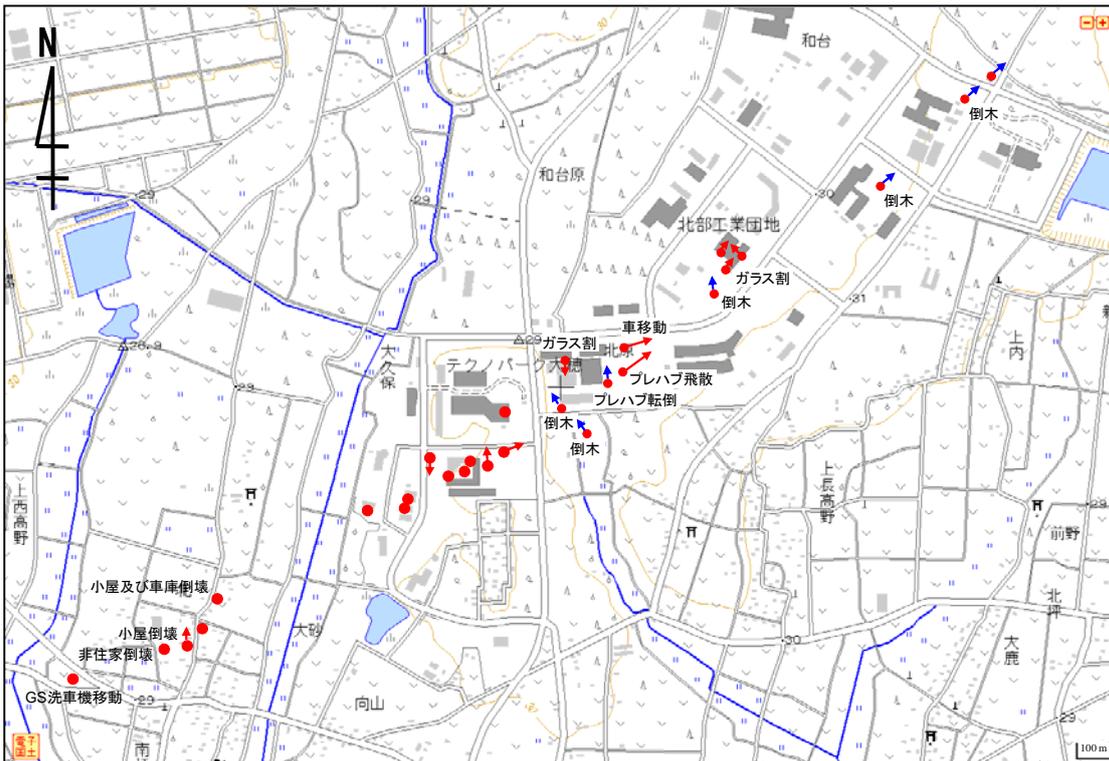
○被害発生地域拡大図

- ➡ 木や植生や物が倒れた方向
- ➡ 屋根瓦や物が飛んだ方向
- 被害の発生した地点

③つくば市 吉沼地区～西高野地区



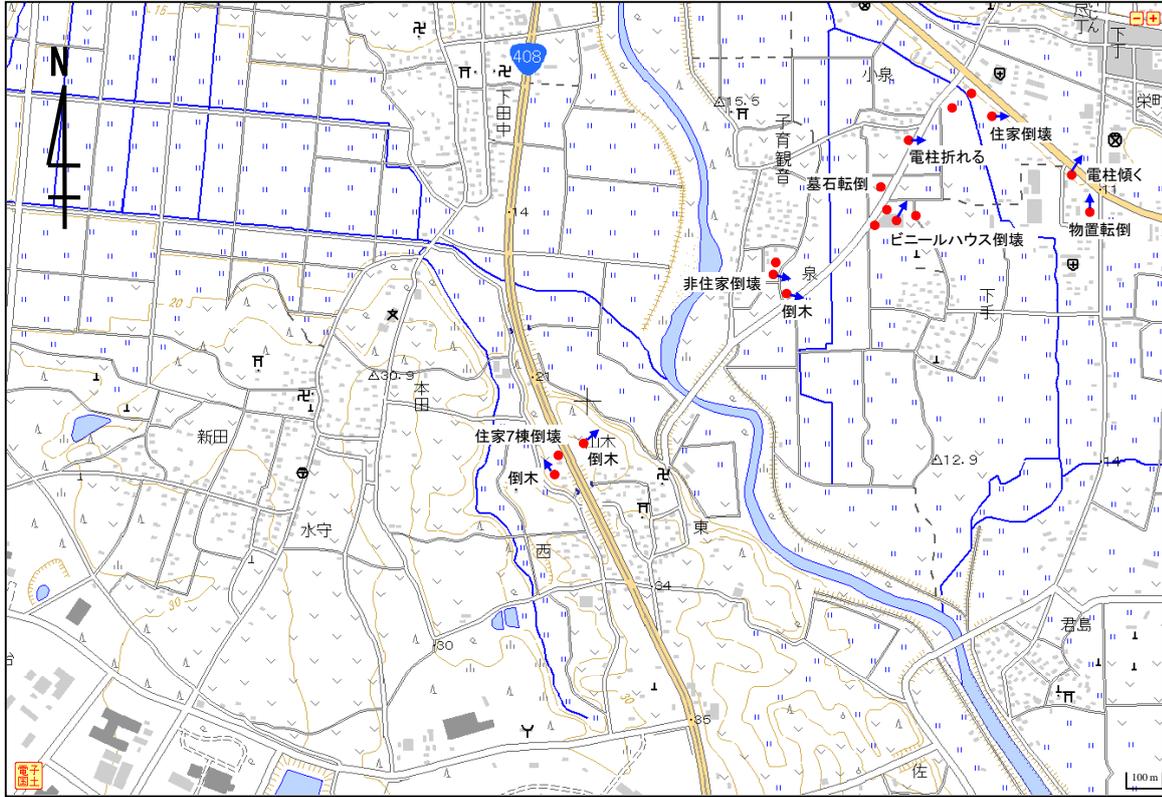
④つくば市 大砂地区～和台地区



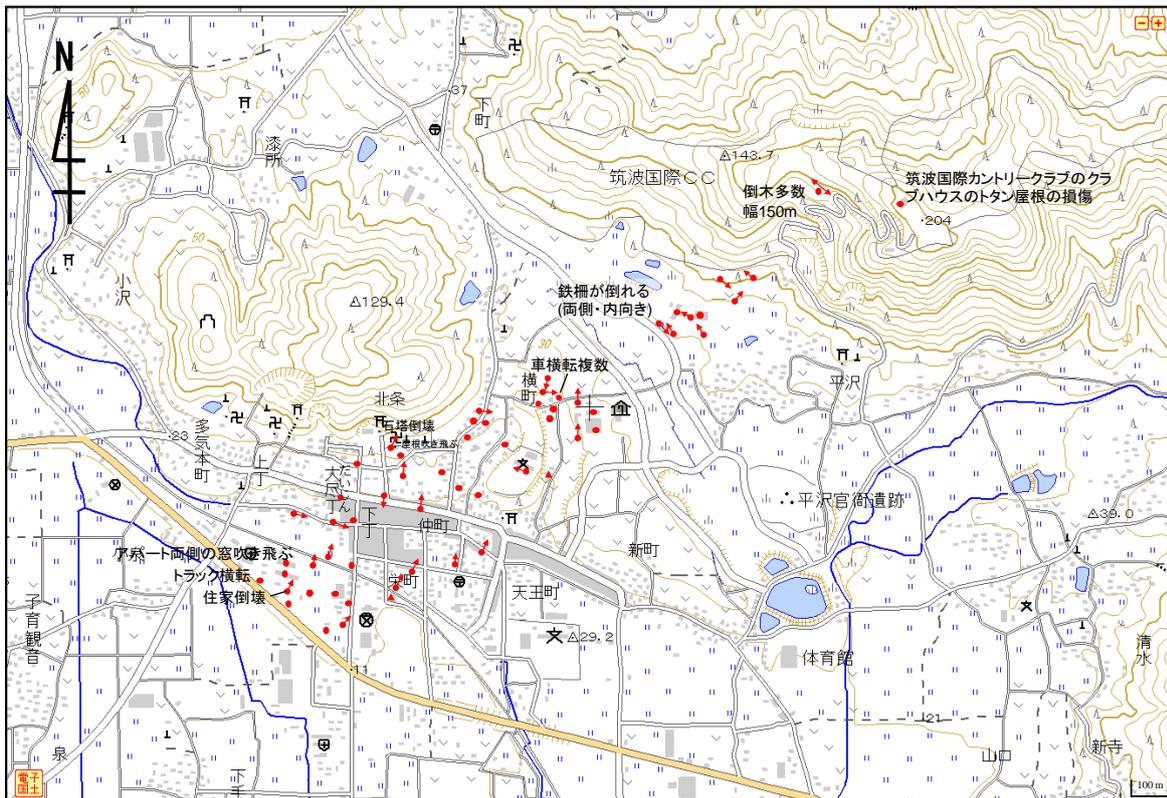
○被害発生地域拡大図

- ➡ 木や植生や物が倒れた方向
- ➡ 屋根瓦や物が飛んだ方向
- 被害の発生した地点

⑤つくば市 山木地区～小泉地区

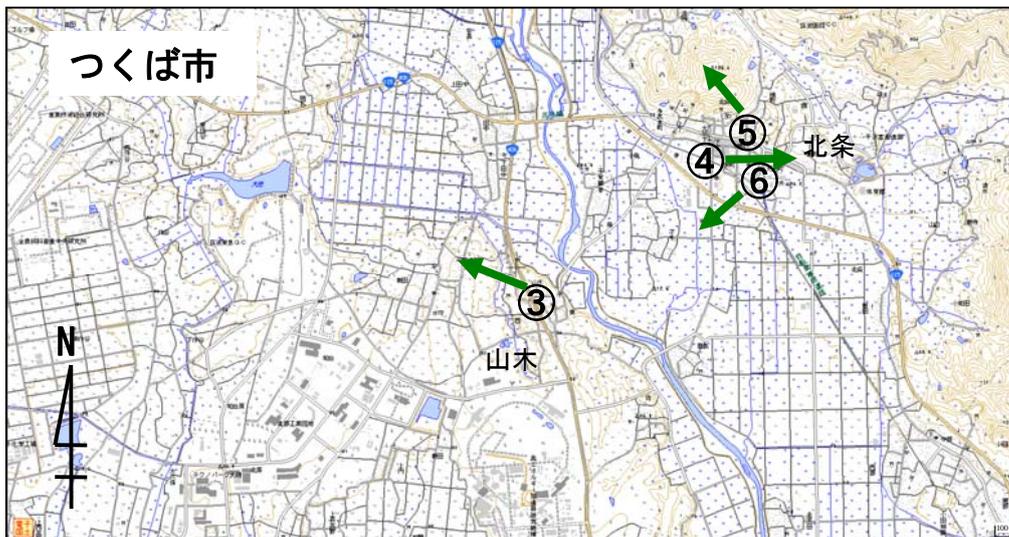
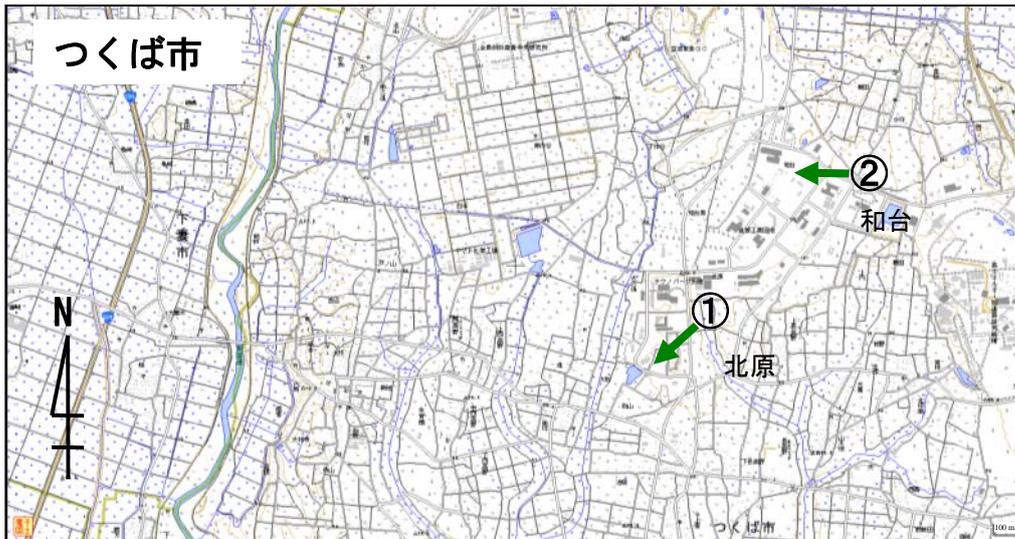


⑥つくば市 北条地区～平沢地区



○写真撮影位置方向図

➡ は写真を撮影した方向
番号は写真を撮影した位置で、各被害状況写真の番号に対応している。



○被害状況写真（つくば市）



① 根元から倒れた樹木
（つくば市北原）



② 折れ曲がった信号機
（つくば市和台）



③ 全壊した家屋
（つくば市山木）



④ 飛散物により被害を受けた住宅等
（つくば市北条）

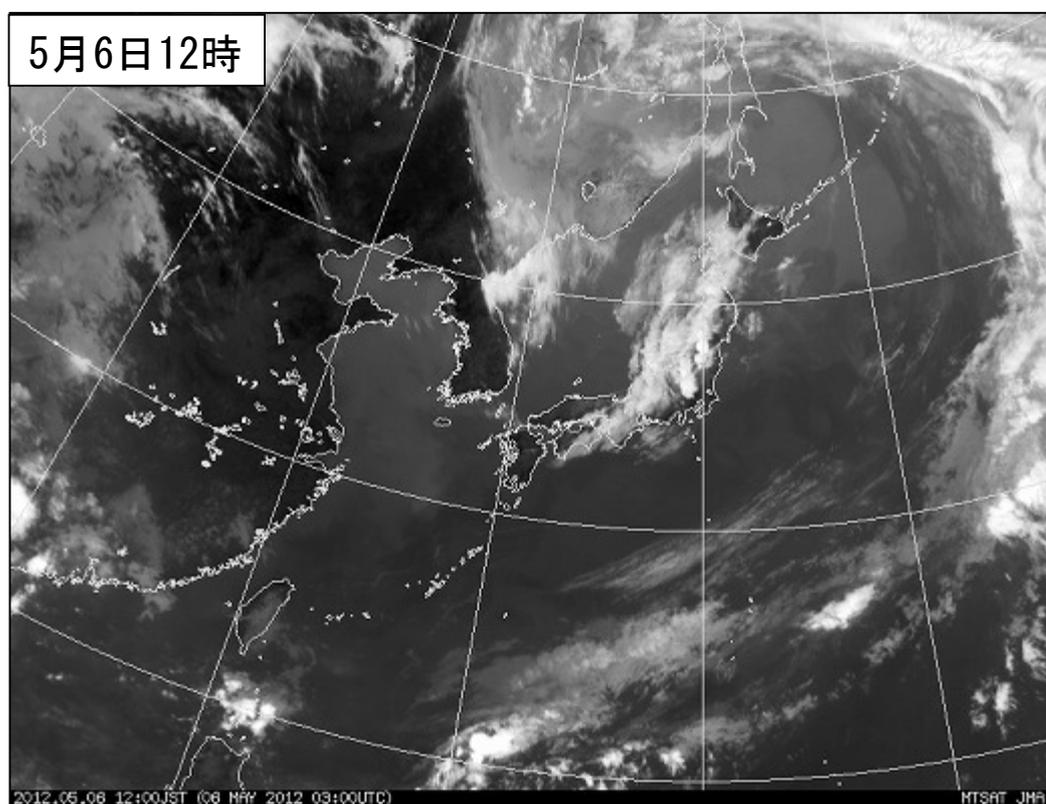
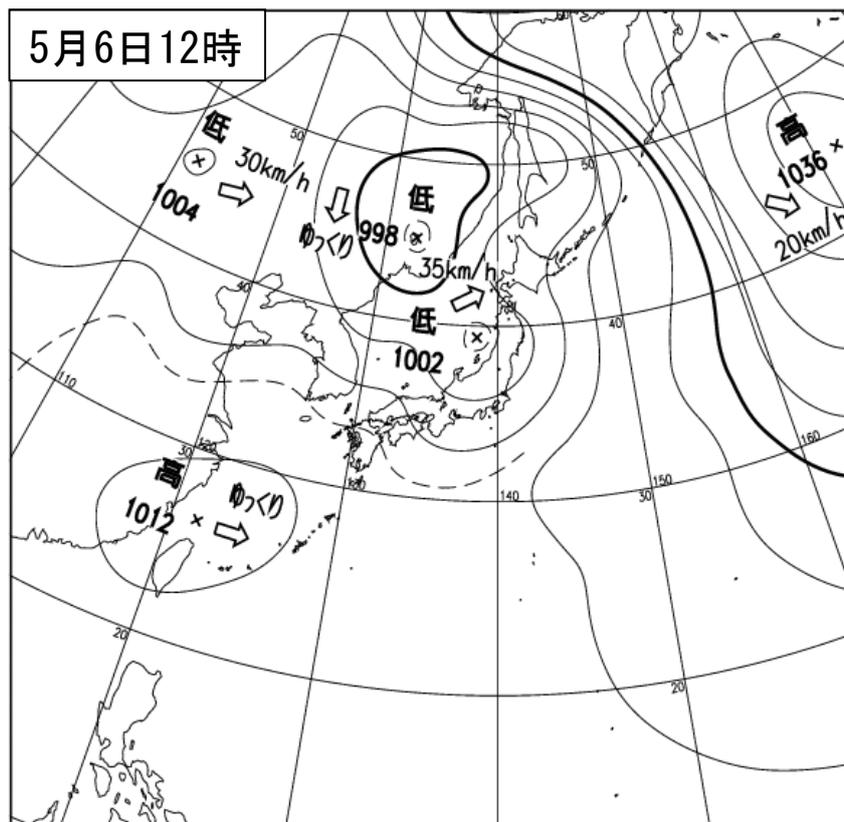


⑤ 倒れた電柱
（つくば市北条）



⑥ 屋根が吹き飛ばされた住宅
（つくば市北条）

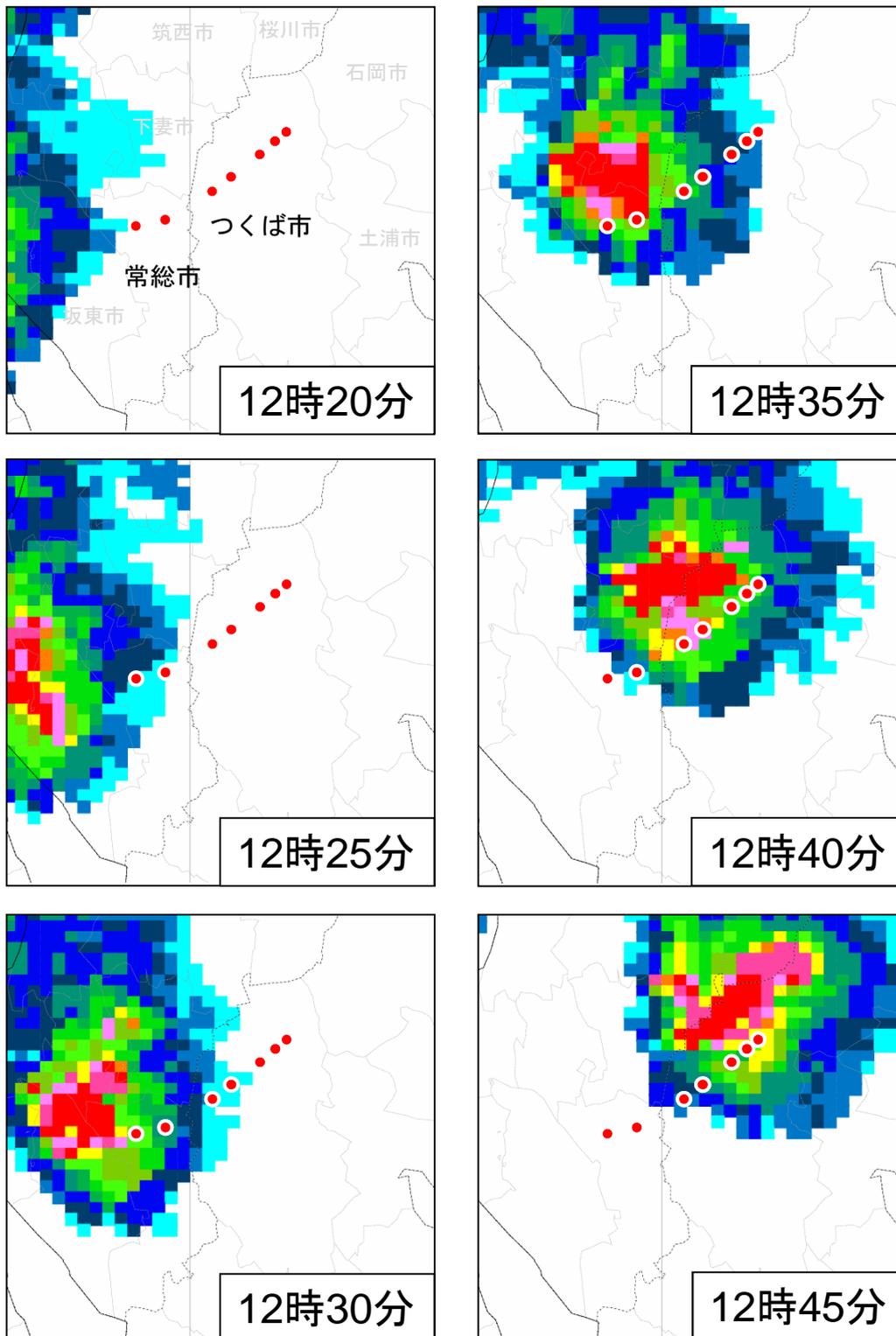
3 気象の状況



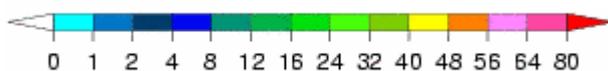
地上天気図および気象衛星「ひまわり7号」赤外画像

平成24年5月6日12時

茨城県常総市からつくば市で突風の発生した時間帯の気象レーダーによる雨雲の様子



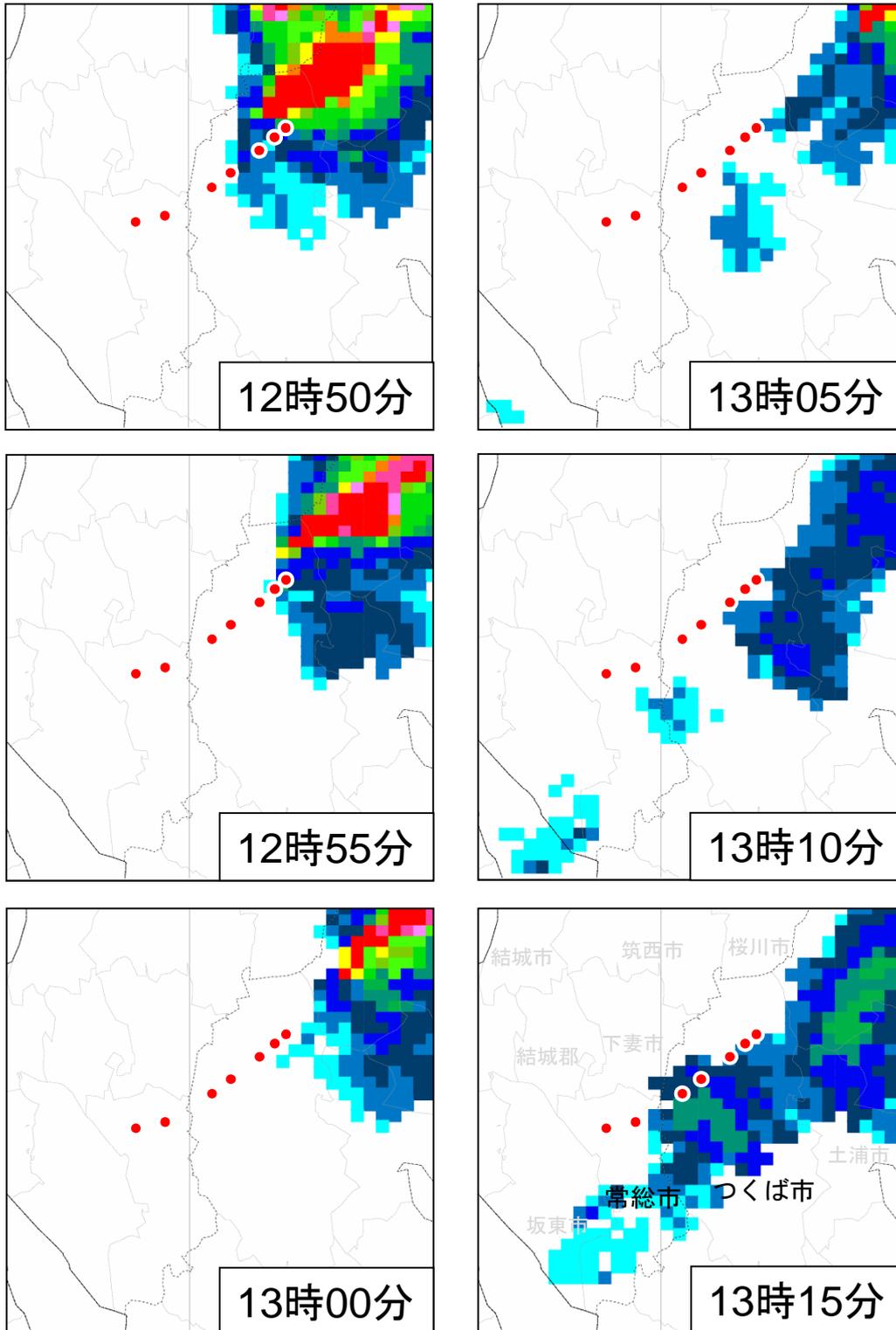
レーダーエコー強度 (mm/h)



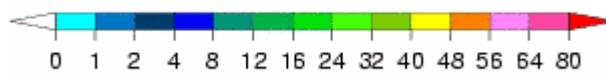
レーダーエコー強度図 (合成レーダー)

平成24年5月6日12時20分～12時45分

図中赤丸印(●)は主な被害発生地域付近を示す。



レーダーエコー強度 (mm/h)



レーダーエコー強度図 (合成レーダー)

平成24年5月6日12時50分～13時15分

図中赤丸印(●)は主な被害発生地域付近を示す。

4 警報・注意報及び気象情報の発表状況

水戸地方气象台発表 平成24年5月6日

○警報・注意報の発表状況

(常総市)

●:発表 ▼:警報から注意報 ○:継続 解:解除
 浸:浸水害 土:土砂災害 土浸:土砂災害、浸水害

斜体字:発表 下線:警報から注意報

発表時刻	暴風雪警報	大雨警報	洪水警報	暴風警報	大雪警報	波浪警報	高潮警報	大雨注意報	大雪注意報	風雪注意報	雷注意報	強風注意報	波浪注意報	融雪注意報	洪水注意報	高潮注意報	濃霧注意報	乾燥注意報	なだれ注意報	低温注意報	霜注意報	着水注意報	着雪注意報
平成24年5月6日 05時47分											●	●											
平成24年5月6日 12時34分								●			○	○											
平成24年5月6日 15時25分								○			○	○			●								
平成24年5月6日 16時14分								○			○	○			○								
平成24年5月6日 17時04分								○			○	○			○								
平成24年5月6日 18時19分								○			○	○			解								
平成24年5月6日 20時47分								○			解	解											
平成24年5月6日 23時18分								解									●						

(つくば市)

●:発表 ▼:警報から注意報 ○:継続 解:解除
 浸:浸水害 土:土砂災害 土浸:土砂災害、浸水害

斜体字:発表 下線:警報から注意報

発表時刻	暴風雪警報	大雨警報	洪水警報	暴風警報	大雪警報	波浪警報	高潮警報	大雨注意報	大雪注意報	風雪注意報	雷注意報	強風注意報	波浪注意報	融雪注意報	洪水注意報	高潮注意報	濃霧注意報	乾燥注意報	なだれ注意報	低温注意報	霜注意報	着水注意報	着雪注意報
平成24年5月6日 05時47分											●	●											
平成24年5月6日 12時34分								●			○	○											
平成24年5月6日 15時25分								○			○	○			●								
平成24年5月6日 16時14分								○			○	○			○								
平成24年5月6日 17時04分								○			○	○			○								
平成24年5月6日 18時19分								○			○	○			解								
平成24年5月6日 20時47分								○			解	解											
平成24年5月6日 23時18分								解									●						

※ 本表では、期間内における警報・注意報の発表、切替、解除の全てを時刻順で掲載しています。

○茨城県竜巻注意情報の発表状況

発表時刻	発表情報
平成24年5月6日 12時38分	茨城県竜巻注意情報 第1号
平成24年5月6日 13時54分	茨城県竜巻注意情報 第2号
平成24年5月6日 15時10分	茨城県竜巻注意情報 第3号
平成24年5月6日 16時06分	茨城県竜巻注意情報 第4号
平成24年5月6日 17時19分	茨城県竜巻注意情報 第5号

○茨城県気象情報の発表状況

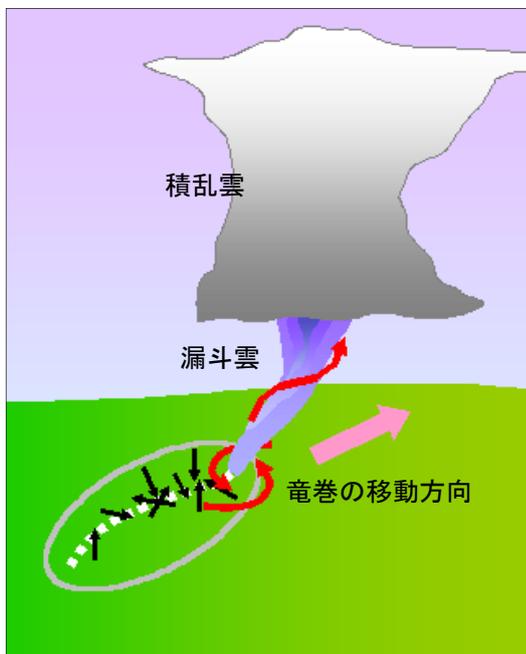
発表時刻	発表情報
平成24年5月6日 05時35分	雷と突風及び降ひょうに関する茨城県気象情報 第1号
平成24年5月6日 17時13分	大雨と雷及び突風に関する茨城県気象情報 第2号
平成24年5月6日 21時04分	大雨と雷及び突風に関する茨城県気象情報 第3号

5 参考資料

突風に関する現地災害調査報告では、被害状況や聞き取り調査から突風が、「竜巻」、「ダウンバースト」、「ガストフロント」など、どの現象によってもたらされたかを推定しています。また、竜巻やダウンバーストによる被害などから、「Fスケール（藤田スケール）」というものさしを使って現象の強さ（風速）を推定しています。ここでは、それぞれの現象とその被害の特徴、Fスケールについて紹介します。

竜巻とは

竜巻とは、積乱雲または積雲に伴って発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状の雲（「漏斗雲」といいます。）を伴っています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低いため、地表面の近くでは空気は渦の中心に向かうように吹き込み（収束）、回転しながら急速に上昇します。



竜巻とその被害の様子

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。



竜巻の移動経路と風向分布の例（新野他、1991）

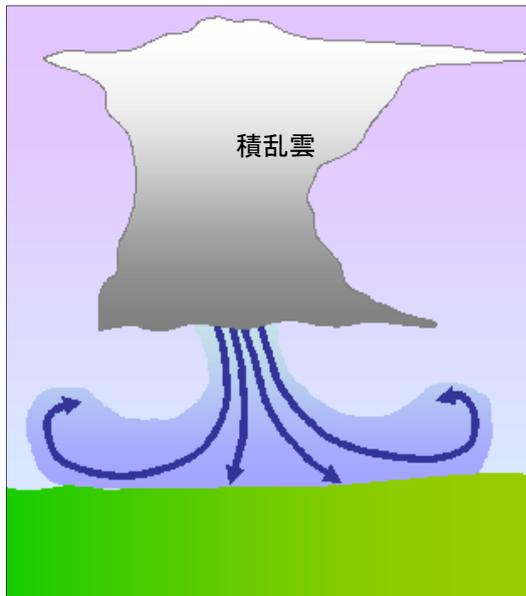
平成2（1990）年12月11日千葉県茂原市で日本では戦後最大級の竜巻が発生しました。この図は、地面近くの構造物や畑の作物の倒れ方の調査から推定した竜巻の移動経路（点線）と風向分布（矢印）です。このように、現地調査を行うことで竜巻の移動経路や風向を知ることができます。また被害の程度から竜巻の強さを知ることができます。

竜巻の現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

- 竜巻の移動とともに風向が回転する。
- 発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。ただし、積雲に伴う場合には、ないこともある。
- 気圧が下降する。急激な気圧低下に伴って、耳に異常を訴える場合がある。
- 被害地域は細い帯状となることが多い。
- 残された飛散物や倒壊物はある点や線に集まる形で残ることがある。
- 重量物（屋根・扉など）が舞い上げられたように移動する。
- 漏斗雲が目撃されたり、飛散物が筒状に舞い上がっているのが目撃されることが多い。飛散物が降ってくる。
- ゴーというジェット機のような轟音がすることが多い。

ダウンバーストとは

ダウンバーストとは、積雲や積乱雲から爆発的に吹き下ろす気流とこれが地表に衝突して周囲に吹き出す破壊的な気流のことをいいます。水平的な広がり大きさにより2つに分類することがあり、広がり4 km以上をマクロバースト、4 km以下をマイクロバーストといいます。

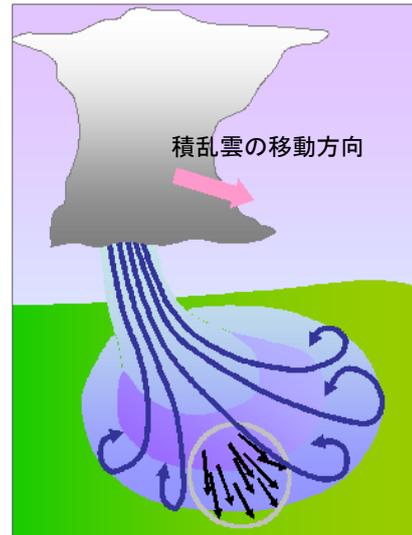


ダウンバーストのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重いダウンバーストの空気を、また、青矢印はダウンバーストの空気の流れを表しています。

ダウンバーストの現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

- 地上では発散的あるいはほぼ一方の風が吹く。
- 発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。
- 気温や気圧は上昇することも下降することもある。
- 短時間の露点温度下降を伴うことがある。
- 強雨や雹を伴うことが多い。
- 被害地域が竜巻のように「帯状」ではなく、「面的」に広がる。
- 物の飛散方向や倒壊方向は同じか、ある点から広がる形となる。

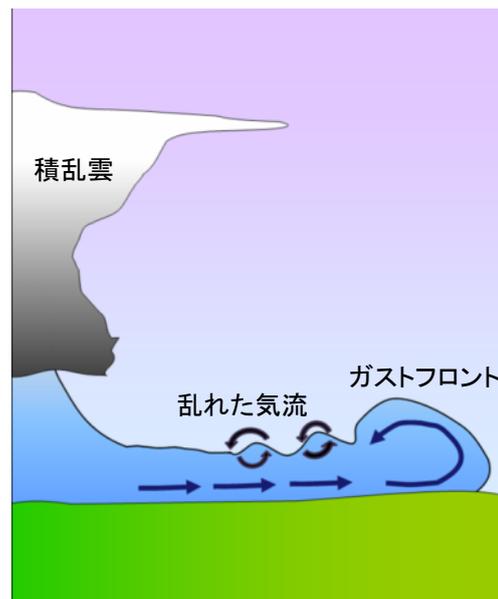


ダウンバーストの被害の様子

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

ガストフロントとは

ガストフロントとは、積雲や積乱雲の下に溜まった冷気が周囲に流れ出し（冷氣外出流といいます。）、周囲の空気との間に作る境界のことをいいます。突風（ガスト）を伴うことがあることから、突風前線と呼ばれます。



ガストフロントのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷氣外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

ガストフロントの現象等の特徴をまとめると次のようになります。

- 降水域から前線状に広がることが多い。
- 風向の急変や突風を伴い、しばらく同じ風向が続くことが多い。
- 気温の急下降や気圧の急上昇を伴うことが多い。
- 降水域付近のみでなく、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。

その他の突風

その他の突風には、じん旋風などがあります。じん旋風は竜巻と同様に鉛直軸をもつ強い渦巻きですが、積乱雲や積雲に伴って発生する竜巻とは異なり、晴れた日の昼間などに地表面付近で温められた空気が上昇することによって発生します。

F スケール（藤田スケール）とは

F スケール（藤田スケール）とは、竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也博士により1971年に考案された風速のスケールです。日本ではこれまでF 4以上の竜巻は観測されていないと言われています。

F スケールの各スケールの風速の下限Vは
 $V=6.3(F+2)^{1.5}$ (m/s)

で与えられ、F 1はビューフォートの風力階級（気象庁風力階級）の第12階級（開けた平らな地面から10mの高さにおける10分間平均風速で32.7m/s以上）、F 12はマッハ1（音速：約340m/s）になるよう定義しています。ただし、ビューフォートの風力階級のような10分間の平均風速に基づくものではなく、ある点を吹きぬけた空気が1/4マイル（約400m）

遠方まで達するのに要する時間内の平均風速によると考えて求めたものです。各スケールと被害との対応は、藤田によると次のとおりとなります。

F0： 17～32m/s（約15秒間の平均）

テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。

F1： 33～49m/s（約10秒間の平均）

屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。

F2： 50～69m/s（約7秒間の平均）

住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。

F3： 70～92m/s（約5秒間の平均）

壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。

F4： 93～116m/s（約4秒間の平均）

住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1トン以上ある物体が降ってきて、危険の上もない。

F5： 117～142m/s（約3秒間の平均）

住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。

【参考文献】

大野久雄著(2001):雷雨とメソ気象. 東京堂出版, 309pp.
新野宏・藤谷徳之助・室田達郎・山口修由・岡田恒(1991):1990年12月11日に千葉県茂原市を襲った竜巻の実態と

その被害について. 日本風工学会誌, 第48号, 15-25.
日本気象学会編(1998):気象科学辞典. 東京書籍, 637pp.
Fujita,T.T.(1992):Mystery of Severe Storms. The University of Chicago,298pp.

現地災害調査速報の作成主旨について

気象台では、大雨や暴風等によって人的な被害等を伴う災害が発生した場合、災害発生の変因となった現象と災害との関係等を迅速に把握するため、可能な限り速やかに災害が発生した地域に職員を派遣し調査を実施することとしている。さらに、現地調査終了後、その調査結果に加えて気象現象の発生状況、実況資料、気象台の執った措置等を速やかに取りまとめ「現地災害調査速報」を作成し、地方公共団体や報道機関等に対して説明を行うこととしている。

気象台として、この速報が地域の防災機関・報道機関とのさらなる連携強化及び地域防災力の向上に役立つことを願っている。

東京管区気象台技術部気候・調査課

問い合わせ先

水戸地方気象台 防災業務課

東京管区気象台技術部気候・調査課

気象研究所 企画室

※ 速報の内容について、私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、東京管区気象台に無断で転載等を行うことはできません。また、引用を行う際は適宜の方法により、必ず出所（東京管区気象台）を明示してください。速報の内容の全部または一部について、東京管区気象台に無断で改変を行うことはできません。